

ISSN 2759-6923

大磯町郷土資料館年報 第36号

年報

—令和5年度—

2024

大磯町郷土資料館

OISO MUNICIPAL MUSEUM

は じ め に

令和 5 年度大磯町郷土資料館年報を刊行いたします。

令和 2 年度から博物館運営に影響を与え続けていた新型コロナウイルス感染症も、令和 5 年 5 月 8 日をもって感染症法の位置づけが 5 類に指定され、令和 5 年度は、ようやく日常が戻った 1 年となりました。

当館では、新たに大磯町の魅力を発信するため、町内にアトリエを構えた画家を取り上げ、企画展を行うことになりました。今年度は第一弾として、洋画家の三岸節子をテーマとし、作品のみならず画家の愛用品などを展示して、町内で行われた創作活動を想起できるよう、展示に工夫を加えました。次年度以降も、町の総合計画に則り、展示企画を実施する予定です。

旧吉田茂邸の運営については、再建後の公開から 6 年を迎え、より多様な活用が求められるようになりました。利活用については再建当初から様々な御意見をいただいていたのですが、実現できていない事業もあります。博物館施設としての役割を担いながら、より多くの方に注目していただけるよう工夫していく必要があるのかもしれません。

令和 5 年 4 月に改正博物館法が施行され、博物館の役割自体も観光型へシフトしている傾向にあります。しかし、その役割の前提には、教育や学習があると認識しています。今後とも郷土資料館・旧吉田茂邸は、地域の資料や文化にかかわる出来事を調査研究し、広く公開することを目的として活動しますので、引き続き、当館の活動に御理解・御協力をお願いいたします。

大磯町郷土資料館

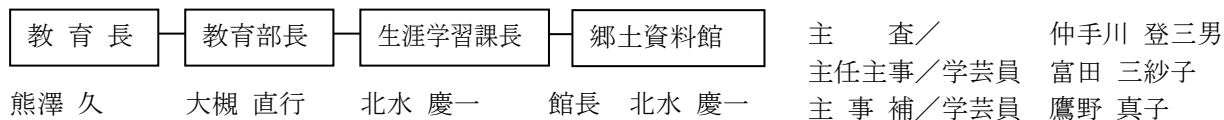
目 次

〔事業報告〕	
大磯町郷土資料館運営	4
・組織および職員	4
・協議会	4
・予算	4
・観覧者数	5
大磯町郷土資料館施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理	7
・維持管理	7
・施設使用	7
大磯町郷土資料館学芸活動	7
・企画展	7
・ワークショップ	10
・博物館資料の整備	12
・刊行物	13
・視察・見学対応	14
・取材対応	14
・レファレンス対応	15
・ホームページを活用した情報発信	16
・博物館資料の収集・整備・利用	16
・文献資料収集状況	19
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動	21
・ミニ企画展	21
・講演会	22
・調度品等の整備	22
・博物館資料の整備	22
・刊行物	23
・視察・見学対応	23
・取材対応	23
・レファレンス対応	23
学芸員の調査・研究・普及活動	24
〔研究報告〕	
吉田茂の妻・雪子 平和への思い	
鷹野 真子	32(7)
小田原藩家老「隅の大久保家」の歴代当主と事績	
伊藤 匠	38(1)

事業報告

大磯町郷土資料館運営

■ 組織および職員



会計年度任用職員／学芸員	飯野 友紀 (-R6. 3. 31)、中原 園子 (-R6. 3. 31)、村田 聡美
会計年度任用職員／学芸補助員	本田 玲子 (R4. 4. 1-R6. 3. 31)、加藤 さおり (R4. 8. 1-R6. 3. 31)
会計年度任用職員／司 書	今井 沙穂里
会計年度任用職員／自然観察指導員	高山 優美
会計年度任用職員	川下 多恵子、佐藤 瑞香、西田 裕子、花輪 弘枝、若栗 尊子 (-R6. 3. 31)、鈴木 道子、石井道朗

■ 協議会

<委員の構成>

- ・ 委 員 長／近藤 英夫 (学識経験者)
- ・ 副委員長／西川 武臣 (学識経験者)
- ・ 委 員／柴田 紳一 (学識経験者)、古川 元也 (学識経験者)、堤 智 (学校教育関係者)、
中島 美江 (社会教育関係者)、大倉 祥子 (観光関係者)、曾根田 玲子 (観光関係者)、
上野 広子 (社会教育関係者)

<協議会の開催>

- | | | |
|--------------------------|------|------------------|
| ・ 第 1 回／令和 5 年 8 月 2 日 | 議題 1 | 令和 4 年度事業報告について |
| | 議題 2 | 令和 5 年度事業について |
| ・ 第 2 回／令和 5 年 12 月 20 日 | 議題 1 | 令和 5 年度事業について |
| | 議題 2 | 令和 6 年度事業について |
| ・ 第 3 回／令和 6 年 2 月 28 日 | 議題 1 | 令和 5 年度事業について |
| | 議題 2 | 令和 6 年度事業について |
| | 議題 3 | 旧吉田茂邸モデル実証事業について |

■ 予算

<当初予算の推移>

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
金額	98,941 千円	92,462 千円	88,987 千円	133,457 千円	119,677 千円	72,460 千円

<令和 5 年度歳入決算額 (一部のみ) >

- | | | | |
|---------------|-------------|--------------------|-----------|
| ・ 旧吉田茂邸観覧料 | 9,956,990 円 | ・ 吉田茂関連製品売上代 | 573,860 円 |
| ・ 旧吉田茂邸刊行物売上代 | 140,260 円 | ・ 郷土資料館刊行物売上代 | 485,520 円 |
| ・ 郷土資料館観覧料 | 431,100 円 | ・ 「わたしたちの大磯の歴史」売上代 | 194,000 円 |

<吉田茂関連製品販売実績> 単位：個

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
バッグ (高マクラ)	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	2	11
バッグ (子沢山)	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	7
バッグ (旧吉田茂邸)	0	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8
ファイル (セット)	9 (1)	9 (0)	7 (1)	3 (0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	28 (2)
ファイル	- -	- -	- -	18 (5)	36 (17)	30 (13)	25 (1)	57 (26)	82 (35)	26 (8)	35 (9)	15 (4)	324 (118)
チャーム	5	9	6	2	4	2	5	2	0	3	4	0	42
根付け	5	10	5	1	2	2	5	9	6	2	4	6	57
手拭い	2	10	105	5	2	11	6	5	4	3	12	4	169

※ファイルのうち、括弧書きの数字は郷土資料館販売分。

<令和5年度歳出決算額>

事業	郷土資料館 運営事務事業	郷土資料館 維持管理事業	郷土資料館 学芸活動事業	教育普及・ 企画展事業	
金額	1,419,652円	14,608,281円	8,223,261円	1,120,716円	
事業	旧吉田茂邸 運営事務事業	旧吉田茂邸 維持管理事業	旧吉田茂邸 学芸活動事業	大磯ゆかりの画家による アトリエ文化発信事業	計
金額	10,358,690円	7,591,420円	366,709円	2,890,567円	46,579,296円

□職員給与(4人分) 22,722,576円 ■歳出合計 69,301,872円

■ 観覧者数

<郷土資料館観覧者数の推移> 単位：人、日

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	累計(昭和63年～)
入館者数	22,201	11,053	24,091	24,719	22,774	1,064,806
1日平均/開館日数	82/271	64/173	94/257	83/297	78/293	108/9,892

※令和元年度は令和元年10月12日、13日を台風19号のため、令和2年3月7日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に続き令和2年6月15日まで、令和3年1月9日から3月21日まで臨時休館

※令和3年度は令和3年7月3日を大雨のため、7月6日から11日までは館内燻蒸のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

<郷土資料館の月別観覧者数> 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
入館者数	1,727	2,958	1,466	935	1,342	1,186	
1日平均	69	118	59	47	52	48	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	1,818	3,644	2,163	1,516	2,225	1,794	22,774
1日平均	70	146	95	66	93	69	78

<旧吉田茂邸（郷土資料館別館）の月別観覧者数> 単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
観覧者数	大人(個人)	1,370	2,164	1,144	895	829	974		
	大人(団体)	80	318	452	106	73	145		
	中学生・高校生(個人)	19	50	9	16	37	13		
	中学生・高校生(団体)	0	0	0	0	0	0		
	小学生以下	25	205	14	33	53	24		
	障がい者/介護者	52	118	44	35	22	31		
	減免対象者	67	42	61	28	29	79		
計		1,613	2,897	1,724	1,113	1,043	1,266		
1日平均		65	116	69	43	40	51		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
観覧者数	大人(個人)	1,528	2,040	1,109	1,200	1,469	1,532	16,254	
	大人(団体)	789	1,078	113	41	325	188	3,708	
	中学生・高校生(個人)	8	19	18	10	27	35	261	
	中学生・高校生(団体)	10	0	0	0	0	0	10	
	小学生以下	103	49	29	24	55	64	678	
	障がい者/介護者	67	109	70	48	89	52	737	
	減免対象者	11	26	45	4	3	8	403	
計		2,516	3,321	1,384	1,327	1,968	1,879	22,051	
1日平均		97	133	60	58	82	72	74	

大磯町郷土資料館施設管理

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託/ (株) 湘南県央サービス
- ・警備委託/ (株) 全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託/ ダイコー (株) 横浜営業所
- ・敷地管理委託/ (財) 神奈川県公園協会
- ・中央監視装置保守点検委託/ 日本電技 (株) 横浜支店
- ・空調機器給水設備保守委託/ (株) 郵生
- ・自家用電気工作物保守委託/ 荻野電気管理事務所
- ・消防用設備保守委託/ (株) 足柄防災
- ・自動ドア保守委託/ (株) 神奈川ナブコ 厚木支店
- ・燻蒸業務委託/ 関東港業 (株) 横浜営業所

<修繕>

- ・多目的トイレ改修工事/ (有) 山本建設
- ・東蔵照明器具改修工事/ 釜津田電機商会
- ・誘導灯器具交換/ (株) 足柄防災
- ・エレベーター非常用バッテリー交換/ ダイコー (株)

■ 施設使用

<施設使用月別件数> 単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	3	3	4	2	2	0	2	3	2	4	3	3	31

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託／高橋産業（株）
- ・昇降機保守委託／（株）日立ビルシステム 横浜支社
- ・消防用設備保守委託／モリタ宮田工業（株）
- ・木製建具調整・木部全体点検委託／松井建設（株）
- ・警備委託／（株）全日警 横浜支社
- ・空調設備保守点検委託／（株）郵生
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会

<修繕>

- ・食堂室内機ファンベルト交換／（株）郵生

■ 施設使用

<施設使用月別件数> 単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	2	0	0	1	3	0	0	0	1	2	0	1	10
食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
金の間	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
全館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

大磯町郷土資料館学芸活動

■ 企画展

春季企画展「小学校開校 150 年記念～学び舎の歴史～」

期 間／令和 5 年 4 月 22 日（土）～6 月 11 日（日）

開場日数／42 日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約 150 点

料 金／無料

観覧者数／4, 215 人

趣 旨／現在の磯町には、大磯小学校と国府小学校の二つの小学校があり、いずれも、日本における近代教育の始まりである明治 6 年（1873）の学制施行によって開校した、歴史ある学校である。学制施行及び両校の開校 150 年を記念して、町内の学校史をテーマとする企画展を開催する。

内 容／大磯小学校及び国府小学校を中心とした大磯町内の学校の歴史を、郷土資料館が所蔵する関係資料を展示することによって紹介した。



(1) 学校の歴史

壁面 2 に町内の学校の歩みを紹介するパネルを設置し、視覚的に学校の変遷を理解できるよう工夫した。

(2) 昔の学校あれこれ

展示ケース B 及び昇降台にて、明治から大正、昭和 10 年代頃までの学校の様子を紹介した。卒業アルバムや学校での勉強内容、教科書、教材、机などの備品、校舎の変遷に関する資料を展示した。

(3) 小学校だけじゃない！～学び舎の数々

展示ケース A にて、小学校以外の中学校や幼稚園などの資料を展示し、その歴史を紹介した。

(4) 伊藤博文、吉田茂…著名人と学校

壁面1にて、大磯の特徴とも言える著名人と学校の関わりを、関係する資料を展示して紹介した。

〔関連行事〕

展示解説

日 時／令和5年5月5日（金・祝）、5月28日（日）、6月11日（日）

14時00分～14時30分

場 所／郷土資料館 企画展示室

参加者数／1回目：8人、2回目：4人、3回目：約20人

内 容／担当者による展示解説を行った。

（担 当）富田

企画展「大磯の風土が育んだ・三人の憧憬～青磁・竹芸・写真それぞれの表現～」

期 間／令和5年11月2日（木）～12月10日（日）

開場日数／33日間

会 場／郷土資料館 企画展示室・休憩室

出品点数／約50点

料 金／無料

観覧者数／4,862人

趣 旨／大磯町は大磯丘陵と相模湾に囲まれ、自然豊かな風土を持つ。そのような環境に育ち、芸術界に活躍する三人の作家にご協力いただき、彼らの作品を通して大磯町という地域環境の豊かさを紹介する。

内 容／竹芸家・藤塚松星氏、陶芸家・川瀬忍氏、写真家・増尾峰明氏の作品を展示し、業績を紹介した。



〔関連行事〕

ギャラリートーク「大磯の風土が育んだ・三人の憧憬トークセッション」

日 時／令和5年11月5日（日）13時30分～15時00分

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／122人

内 容／出品者3人によるトークセッション。

（担 当）北水・富田・鷹野

アトリエ開設60年記念企画展「三岸節子と大磯」

期 間／令和6年1月27日（日）～2月25日（土）

開場日数／25日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約40点

料 金／大人500円、中高生200円

観覧者数／986人

趣 旨／洋画家の三岸節子は、1964（昭和39）年に、大磯にアトリエを構えた。三岸は、「私は大磯に移り住んで太陽の画家となった」と自著に記し、風景画への開眼について特筆している。1968（昭和43）年から1989（平成元）年までは、南仏カーニュやブルゴーニュのヴェロンを活動の場としたが、帰国後は大磯に戻り、画業を続けた。三岸節子の業績とともに、人柄や大磯での暮らしぶりについて展示を通して紹介する。

内 容／大磯で描いた作品を中心に展示を行う。また、愛用したパレットなどの画材をあわせて展示する。



〔関連行事〕

講演会

日 時／令和6年2月4日（日）13時30分～15時30分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／三岸 太郎 氏、一宮市三岸節子記念美術館 野田 路子 氏

参加者数／121 人

内 容／三岸節子の御令孫・三岸太郎氏と野田路子氏の対談形式で、大磯のアトリエにおける三岸節子の作画活動や暮らし、家族から見た三岸節子を御紹介いただいた。

〔関連商品の販売〕

一宮市三岸節子記念美術館及び高輪画廊が販売する関連商品の販売を受託した。一宮市三岸節子記念美術館からは、図録、クリアファイル、絵葉書、缶バッジの販売を受託し、総点数 427 点、94,930 円（内町収入分は 15,440 円）の売上げがあった。高輪画廊からは、一筆箋、絵葉書の販売を受託し、総点数 100 点、35,300 円（内町収入分は 7,060 円）の売上げがあった。

（担 当）北水・富田

ミニ企画展「大磯の災害—関東大震災から 100 年—」

期 間／令和 5 年 8 月 2 日（水）～10 月 31 日（火）

開場日数／76 日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／約 20 点

料 金／無料

観覧者数／4,346 人

趣 旨／令和 5 年 9 月 1 日、関東大震災から 100 年を迎える。このことを契機として郷土資料館が作成した大磯の災害に関するポスターを展示し、災害の記憶の継承及び防災意識を啓発する。

内 容／平成 24 年度に実施した「大磯の災害」展の内容をまとめたポスターの内、震災に関するポスターを展示する。また、同展にて作成した、関東大震災体験者の証言動画を放映する。危機管理課及び大磯町災害救援ボランティアの会によるハザードマップ、防災グッズ等を展示する。

〔関連行事〕

講演会「大正関東地震から 100 年～地震に備える～」

日 時／令和 5 年 8 月 20 日（日）14 時 00 分～16 時 00 分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／横浜地方気象台防災管理官 松井 正人 氏

参加者数／48 人

内 容／大正関東地震の被害や地震が発生したメカニズムを振り返り、今後の巨大地震への備えについて講義した。

（担 当）富田

ミニ企画展「大磯の鳥 アオバトの事実」

期 間／令和 6 年 2 月 2 日（金）～7 月 31 日（水）

開場日数／180 日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／約 14 点

料 金／無料

観覧者数／10,832 人

趣 旨／大磯町の照ヶ崎海岸にはアオバトの群れが飛来する。大磯町民にとって身近で見ることのできる野鳥だが、照ヶ崎海岸に来ることには様々な理由がある。今回は展示を通して、アオバトの形態的特徴、生態、大磯までの移動ルート、照ヶ崎海岸へ飛来する要因などを紹介する。

内 容／「大磯の鳥 アオバトの事実」ポスター 9 枚を、郷土資料館廻廊に掲示する。また、関連資料として、郷土資料館が所蔵するアオバト関係資料数点を展示ケース内にて展示する。

〔関連行事〕

アオバト観察会

アオバトは大磯で見られる特徴的な生き物である。アオバトの生態に触れ、生き物とその生息地の関係を知ること、自然環境について興味を深めるきっかけとする。

期 日／令和5年7月8日（土）
 場 所／照ヶ崎海岸
 講 師／こまたん 齋藤 常實 氏、金子 典芳 氏
 参加者数／49人
 内 容／望遠鏡を使って、アオバトの海水吸飲の様子や形態を観察する。
 （担 当）村田

大磯自然発見コーナー

趣 旨／大磯町内で採集できる自然資料などを館内に展示し、自然観察の参考となる情報を提供する。自然環境に関心が高めるきっかけつくりにつなげる。

〔第1回〕「海の宝石 相模湾のウミウシ」

期 間／令和5年4月26日（水）～7月30日（日）
 出品点数／約20点
 内 容／相模湾に生息する生き物としてウミウシを取り上げ、形体や色彩の違いや食性などを紹介する。

〔第2回〕「海の教室 参加者作品展」

期 間／令和5年11月2日（木）～令和6年1月11日（水）
 出品点数／34点
 内 容／「海の教室」に参加した参加者の作品を紹介する。

〔第3回〕「相模湾の生き物」

期 間／令和6年1月12日（木）～5月2日（木）
 出品点数／13点
 内 容／相模湾に生息する様々な生き物の一部を紹介する。
 （担 当）高山・村田

■ ワークショップ

<古文書裏打クラブ>

期 日／令和5年4月22日（土）、5月20日（土）、6月17日（土）、7月22日（土）、8月19日（土）、9月16日（土）、10月21日（土）、11月18日（土）、12月16日（土）、令和6年1月20日（土）、2月17日（土）、3月16日（土）
 場 所／郷土資料館 研修室
 会 員 数／15人
 活動内容／裏打ちの技術を学びながら、当館で所蔵している古文書の裏打ちを行うワークショップ。博物館資料の整理というボランティア的な性格をもつ活動として位置づけ、平成16年度から継続している。活動内容は、昨年度に引き続き、襖に下張りされていた古文書などの資料化を進める。なお、会員は随時募集し、本年度は現時点で4名が入会した。

参加者数／ 単位：人

開催日	4/22	5/20	6/17	7/22	8/19	9/16	10/21	11/18	12/16	1/20	2/17	3/16	計
参加者数	13	14	15	12	10	9	12	14	11	11	11	14	146

（担 当）富田・鷹野

<古文書解読クラブ>

期 日／令和5年4月8日（土）、5月6日（土）、6月3日（土）、8月5日（土）、9月2日（土）、10月7日（土）、11月4日（土）、12月2日（土）、令和6年1月6日（土）、2月3日（土）、3月2日（土）
 ※7月は燻蒸作業のため休会

場 所／郷土資料館 研修室
 会 員 数／11人
 活動内容／郷土資料館が所蔵する古文書を会員と共に解読することにより、大磯の歴史を学び、古文書資料の活用を図ることを目的として、平成24年度から毎月第一土曜日を原則として活

動を始めた。町指定文化財である大磯宿小島本陣資料の休泊帳を解読し、翻訳文を刊行することを目指している。また、引き続き、会員有志で毎週金曜日の活動を行い、大正期の
大磯町の助役日誌を解読している。本年度は会員を募集せず、年度中2名退会した。

参加者数／ 単位：人

開催日	4/8	5/6	6/3	8/5	9/2	10/7	11/4	12/2	1/6	2/3	3/2	計
参加者数	9	8	7	8	8	7	6	6	7	7	9	82

(担 当) 富田

<写真整理クラブ>

期 日／令和5年4月16日(日)、5月11日(木)・25日(木)、6月8日(木)・22日(木)、7月13日(木)・20日(木)、8月10日(木)・24日(木)、9月7日(木)・21日(木)、10月12日(木)・26日(木)、11月9日(木)・23日(木)、12月7日(木)・21日(木)、令和6年1月11日(木)・25日(木)、2月8日(木)・22日(木)、3月7日・22日(木)

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／4人

活動内容／郷土資料館が所蔵する写真を会員と共に整理し、資料の活用を図ることを目的として、平成28年度から毎月第二、第四日曜日を原則として活動を始めた。今年度も引き続き、町広報担当者が撮影した写真のフィルムをスキャンし、デジタル化する。また、必要に応じてフィルムの清掃を行う。ネガフィルムのアルバム全28冊の内、18冊目(資料番号N18)まで、フィルムをデジタル化した。なお、5月から参加者及び担当者の都合により原則第二、第四木曜日に活動することになった。本年度は会員を募集しなかった。

※参加者の興味関心に応じて、古文書解読クラブの有志も交えて境界石調査を実施している。境界石は町内に設置された別荘等の敷地を示す石杭のこと。資料館所蔵のものが未調査であったため、有志で調査を開始した。5月11日(木)、6月8日(木)、7月13日(木)、8月10日(木)、9月7日(木)、10月12日(木)、11月9日(木)、12月7日(木)、1月11日(木)・25日(木)に実施し、6月8日は写真整理クラブの会員が欠席したため、参加者数が0人になっている。

参加者数／ 単位：人

開催日	4/16	5/11	5/25	6/8	6/22	7/13	7/20	8/10	8/24
参加者数	2	5	4	0	3	3	3	3	3
開催日	9/7	9/21	10/12	10/26	11/9	11/23	12/7	12/21	1/11
参加者数	4	3	5	5	4	4	4	4	4
開催日	1/25	2/8	2/22	3/7	3/21	計			
参加者数	3	4	3	4	3	80			

(担 当) 富田

<海の教室>

特定の学問分野にかかわらず「海」をテーマに様々なことを体験し、楽しみながら海岸環境や海産生物についての知識を深めることを目的に平成12年度から実施している。

「楽しい海藻おしばづくり」

期 日／令和5年7月26日(水)

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／35人

	大人	子ども
午前	8	13
午後	4	10
計	12	23

内 容／現在全国的に磯焼けなど藻場が減少している。海藻の大切さ、海の森の大切さ、陸の森と海の森のつながりなど、DVD教材を使用し、海の環境保全の大切さを解説する。その後照ヶ崎海岸をはじめ神奈川県内の浜辺で拾った海藻を使った海藻おしばづくりを行う。

(担 当) 高山

「海の漂着物で君だけの作品を作ろう」

期 日／令和5年8月3日（木）

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／17人（大人7人、子ども10人）

内 容／漂着物には自然のもの、人工のもの、海のもの、陸のものなどがある。漂着物を知ること
で海の中には陸からでは見ることが出来ない生き物がいることや人の関わった様々な
ものが流れ着くことを知ることが出来る。人間が出した物が自然界に影響を与えていること
を知り、身近な海の環境に目を向けるきっかけとする。また、実際に大磯の海岸で拾うこ
とのできる漂着物を使って作品を作る。

（担 当）村田

「ブルーカーボンって何だろう？海藻の万華鏡づくり」

期 日／令和5年8月23日（水）

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／47人

	大人	子ども
午前	6	16
午後	9	16
計	15	32

内 容／各地方自治体がブルーカーボンへの取り組みを行っているが、まだ「ブルーカーボン」と
いう言葉を知らない方も多し。この講座では、海藻の万華鏡を作ることをきっかけに、海
洋性植物が二酸化炭素を吸収していること（ブルーカーボン）を講義し、SDGs13・14・15
について理解を深める。

（担 当）高山

「ちりめんモンスターを探せ」

期 日／令和6年3月27日（水）

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／3人（大人1人、子ども2人）

内 容／しらすやしらす漁、チリメンジャコについて講話した後、ちりめんモンスターの同定を行
い、ちりめんモンスターコレクションを参加者同士で披露した。

（担 当）高山

■ 博物館資料の整備

＜資料整備委託＞

映像フィルムデジタル化委託1

業務内容／16ミリフィルム「大磯」「大磯駅前」のデジタル化

契約期間／令和5年6月13日～8月31日

請 負 者／（株）東京光音

映像フィルムデジタル化委託2

業務内容／1/2統一型オープンリールテープ国府小学校タイムカプセル保管映像のデジタル化

契約期間／令和5年9月21日～10月29日

請 負 者／アスプレス（株）

映像フィルムデジタル化委託3

業務内容／1/2統一型オープンリールテープ及び8ミリフィルム国府小学校及び大磯小学校タイムカ
プセル保管映像のデジタル化

契約期間／令和5年11月28日～令和6年2月29日

請 負 者／（有）レトロエンタープライズ

<歴史資料の整理>

平成 30 年度から、歴史資料を段階的に整理することとし、整理作業を進めている。本年度は、次のとおり整理を進めた。

文献資料（古文書等）

- ・適宜、文献資料として整理した資料の目録を追加した。

受入番号	資料群名	点数	受入番号	資料群名	点数
2014-1101	宮代梅太郎家旧蔵資料	35	2016-0505	坂井孝明家旧蔵資料	437
2015-0202 他	中村藤雄家旧蔵資料	1,085	2016-0705	清水弘子家旧蔵資料	1
2015-0310	旧国府町行政資料	1,337	2016-0805	張博書額裏張り資料	43
2015-0401	伊東宗兵衛家文書	21	2017-0108	諸品注文帳	1
2015-0511	鍋島家資料	19	2017-0703	国府幼稚園文書	95
2016-0201	植田謙吉家旧蔵資料	91	2016-0705	清水弘子家旧蔵資料	1

コレクション資料

- ・吉田茂関係資料を新たに 20 点受け入れ、所蔵点数が 4,661 点になった。
- ・吉田茂関係資料の内、吉田家旧蔵資料（受入番号 2017-0309）の書簡資料 3 点の翻刻作業を進めた。
- ・川瀬竹春関係資料を新たに 2 点受け入れ、所蔵点数が 9 点になった。
- ・鳴立庵関係資料を新たに 1 点購入し、所蔵点数が 1,761 点になった。
- ・安田鞞彦関係資料を新たに 1 点購入し、所蔵点数が 14 点になった。
- ・山本丘人関係資料を整理した。総点数 275 点。
- ・野島嘉章関係資料を整理した。総点数 183 点。

美術品

- ・絵画を新たに 2 点受け入れ、所蔵点数が 351 点になった。
- ・その他貴重資料を新たに 5 点受け入れ、所蔵点数が 33 点になった。

絵葉書

- ・新たに 7 点受け入れ、所蔵点数が 949 点になった。

写真

- ・ホームページの収蔵資料データベースに、大磯町広報担当撮影写真の画像を 38 シリーズ公開した。公開した画像の件数は、計 75 シリーズ。

映像

- ・ホームページの収蔵資料データベースに、映像「大磯での夏休み」を公開した。
（担当）富田・鷹野・飯野・中原・本田・加藤

■ 刊行物

<図録・冊子>

- ・企画展『三岸節子と大磯』図録 A4 判 32 頁 1,000 部（令和 6 年 1 月刊）
- ・資料館資料 22『大磯町助役日誌』（大正八年） A4 判 84 頁 500 部（令和 6 年 3 月刊）
- ・別荘絵地図『大磯に別荘を構えた人々』 B2 判 500 部（令和 6 年 2 月刊）

<チラシ・パンフレット>

- ・春季企画展『小学校開校 150 年記念』チラシ A4 判両面 10,000 部（令和 5 年 4 月刊）
- ・春季企画展『小学校開校 150 年記念』解説資料 A4 判 4 頁 500 部（令和 5 年 4 月刊）
- ・企画展『大磯の風土が育んだ・三人の憧憬』チラシ A4 判両面 10,000 部（令和 5 年 10 月刊）
- ・企画展『大磯の風土が育んだ・三人の憧憬』ポストカードセット A5 判 700 部（令和 5 年 10 月刊）
- ・企画展『三岸節子と大磯』チラシ A4 判両面 10,000 部（令和 5 年 11 月刊）
- ・企画展『三岸節子と大磯』ポスター A1 判片面 500 部（令和 5 年 11 月刊）

■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視 察	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見 学	0	1	0	0	2	1	3	2	1	2	7	1	20

<見学対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・Manabo-Labo／8月3日／15人（村田）
- ・令和5年度大磯町新採用等教職員夏季研修会／8月4日／17人（北水）
- ・高麗1300／10月12日／25人（富田）
- ・中新田小学校区ふれあい推進委員会／10月24日／20人（鷹野）
- ・町田のたまのよこやまガイドの会／10月26日／14人（富田）
- ・川瀬忍氏関係者／11月22日／7人（富田）
- ・帝京大学小山俊樹ゼミ／11月25日／17人（鷹野）
- ・鎌倉検定学びの会／12月2日／9人（鷹野）
- ・おかみゆき町議会議員／1月11日／3人（國見）
- ・神明町福祉推進委員会／1月27日／10人（富田）
- ・聖ステパノ学園／2月2日／10人（鷹野・村田）

■ 取材対応

<刊行物>

- ・神奈川新聞 令和5年5月掲載「春季企画展『小学校開校150年記念』紹介」（富田）
- ・タウンニュース 令和5年5月19日掲載「小学校の150年を辿る」（富田）
- ・タウンニュース 令和5年6月17日取材「新型コロナウイルス感染症関連資料の収集について」（富田）
- ・タウンニュース 令和5年6月23日掲載「牧野富太郎の活動を本に」
- ・朝日新聞 令和5年6月28日取材「大磯の海水浴場について」（富田）
- ・タウンニュース 令和5年7月7日掲載「コロナ禍を歴史に残す」（富田）
- ・タウンニュース 令和5年9月1日掲載「被害知り防災に繋ぐ」（富田）
- ・神奈川新聞 令和5年9月5日掲載「資料館ウェブサイト公開『100年前の大磯・小見助役の一日』紹介」（富田）
- ・『月刊望星』 令和5年9月17日取材「高田保に関する特集記事」（富田）
- ・読売新聞 令和5年10月7日掲載「湘南の地名について」（北水）
- ・神奈川新聞 令和5年10月27日対応「『大磯の風土が育んだ、三人の憧憬展』の紹介」（富田・鷹野）
- ・朝日新聞 令和5年11月1日対応「『大磯の風土が育んだ、三人の憧憬展』の紹介」（富田）
- ・建通新聞 令和5年11月8日対応「湘南の地名について」（富田）
- ・信濃毎日新聞 令和5年11月13日～16日対応「島崎藤村と左義長について」（北水・富田）
- ・ネクスコ東日本広報誌 令和6年1月17日対応「大磯町内の歴史について」（富田）
- ・東京新聞 令和6年2月12日「企画展『三岸節子と大磯』の紹介」（富田）

<テレビ・ラジオ>

- ・ケーブルテレビ『情報カフェ！湘南館ワイド（令和5年5月2日初回放送）』『春季企画展『小学校開校150年記念』紹介』（富田）
- ・ケーブルテレビ『情報カフェ！湘南館ワイド（令和5年9月6日初回放送）』『ミニ企画展『大磯の災害－関東大震災から100年－』の紹介』（富田）
- ・ケーブルテレビ『情報カフェ！湘南館ワイド（令和5年11月7日初回放送）』『『大磯の風土が育んだ、三人の憧憬展』ギャラリートークの紹介』（鷹野）
- ・NHKラジオ横浜 令和6年1月10日対応「企画展『三岸節子と大磯』の紹介』（鷹野）

<ウェブサイト>

- ・女子美術大学 令和6年2月8日公開「大磯町郷土資料館にて企画展『三岸節子と大磯』が開催中です」(富田)
- ・Yahoo!JAPAN クリエイターズプログラム 令和6年2月19日公開「アトリエ開設60年記念企画展『三岸節子と大磯』」(富田)

■ レファレンス対応

- ・令和5年4月6日／中川隣之輔について／個人(富田)
- ・令和5年4月12日／愛宕神社の靖献碑について／個人(富田)
- ・令和5年4月30日／西小磯の切通について／個人(鷹野・飯野)
- ・令和5年4月30日／西行法師や虎御前の調査について／個人(飯野)
- ・令和5年5月11日／黒岩城と本多信親について／個人(鷹野)
- ・令和5年5月14日／滄浪閣の杉戸絵について／印南町文化協会(富田)
- ・令和5年4月29日～5月14日／大磯町青年学校について／個人(富田)
- ・令和5年5月16日～17日／相州大磯駅全図について／個人(鷹野)
- ・令和5年5月16日／安田鞞彦の書簡の解説について／個人(鷹野)
- ・令和5年5月16日～19日／嶋立庵の扁額について／個人(富田)
- ・令和5年6月11日／キヌガサタケについて／個人(村田)
- ・令和5年6月14日／大磯小学校のクスノキについて／個人(富田)
- ・令和5年6月20日／城山荘が名古屋鉄道に売却され県有となる経緯について／個人(富田)
- ・令和5年6月29日／大磯の沖にある廃潜水艦について／個人(鷹野)
- ・令和5年7月13日／カジイチゴの自生について／個人(村田)
- ・令和5年7月19日／近藤翁頌徳碑について／個人(鷹野)
- ・令和5年7月22日／西郷従道別邸の石垣について／個人(富田)
- ・令和5年8月2日／東の池に繁茂している植物について／個人(村田)
- ・令和5年8月4日／郷土資料館所蔵の「万祝」について／千葉県立中央博物館(鷹野)
- ・令和5年8月6日／大磯の地名の由来について／個人(鷹野)
- ・令和5年8月10日／西小磯老人憩いの家敷地内の御嶽社について／個人(富田)
- ・令和5年8月10日／高麗寺関連論文の典拠である一次資料について／個人(富田)
- ・令和5年8月30日／斎藤亀次郎の別荘位置について／個人(鷹野)
- ・令和5年9月21日／西小磯の徳本名号塔について／個人(鷹野)
- ・令和5年9月24日／坂田道のサーフボードについて／個人(富田)
- ・令和5年10月18日／コレクションポリシーについて／相模原市立博物館(富田)
- ・令和5年10月25日／寄贈品の確認について／個人(富田)
- ・令和5年11月10日／郷土資料館周辺の森林に生息する動物について／個人(村田)
- ・令和5年11月22日／城山荘の完成年について／個人(富田)
- ・令和5年11月28日／化粧坂にある一里塚について／個人(富田)
- ・令和5年11月12日～17日／慶覚院の移転について／個人(富田・鷹野)
- ・令和5年12月23日／資料館展示の土器等について／個人(國見)
- ・令和5年12月27日／チャンチャン横丁について／個人(富田)
- ・令和6年1月5日／諏訪神社の大松について／個人(鷹野)
- ・令和6年1月11日／先祖調査の協力依頼／個人(富田)
- ・令和6年1月16日／左義長の呼称、飾り、七夕との関係について／個人(富田)
- ・令和6年1月24日／馬場台遺跡出土弥生土器の熟覧／元静岡県教育委員ほか(國見)
- ・令和6年1月27日／西小磯の稲荷講について／個人(鷹野)
- ・令和6年1月30日／秀吉小田原征伐時に係る質問／個人(富田)
- ・令和6年2月4日／明治39年の大磯町の現在地特定について／個人(富田)
- ・令和6年2月16日／捕獲アライグマの対応について／個人(村田)
- ・令和6年2月18日／大磯字後谷原所在火葬場の現状確認／調査研究者(國見)
- ・令和6年2月22日／照が崎海岸の変化との原因について／個人(村田)
- ・令和6年3月6日／中川良知の雅号について／個人(富田)

- ・令和6年3月10日／馬場台遺跡、祇園塚遺跡の所在地と性格ついて／個人（國見）
- ・令和6年3月15日／明治期 常宮周宮両内親王下 写真について／惑星社（鷹野）

■ ホームページを活用した情報発信

<ホームページの更新>

- ・休館情報を公開した。
- ・収蔵資料データベースで公開する資料を追加した。
- ・「100年前の大磯～小見助役の一日～」を更新した。

<ブログの更新>

- ・年間を通して、郷土資料館は17回、旧吉田茂邸は3回更新した。

<SNSの利用>

- ・X（旧 Twitter）は、年間を通して129回投稿し、962件の反応があった。フォロワー数は1,405件。
- ・Facebook は、年間を通して123回投稿し、763件の反応があった。フォロワー数は402件。
- ・Instagram は、年間を通して74回投稿し、1,680件の反応があった。フォロワー数は272件。

※フォロワー数は、令和6年5月5日確認。

■ 博物館資料の収集・整備・利用

<寄贈資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄贈者
2023-0401	R5. 4. 4	絵葉書 ほか	4	高木知己
2023-0501	R5. 5. 13	山本丘人関係資料	一括	山本由美子
2023-0503	R5. 5. 26	吉田茂勲章 ほか	15	吉田暁子
2023-0504	R5. 5. 28	写真（大磯小学校航空写真 ほか）	3	仲川元秋
2023-0601	R5. 6. 1	絵葉書	1	高木知己
2023-0603	R5. 6. 25	古文書・版本	一括	西海誠美
2023-0801	R5. 8. 2	写真	1	仲川元秋
2023-0901	R5. 9. 5	大正大震災誌	1	渡邊正
2023-1001	R5. 10. 18	日傘	1	長谷川信子
2023-1101	R5. 11. 16	大磯アカデミー・ハウス絵葉書	4	鷹野真子
2023-1102	R5. 11. 21	ハンテンほか	4	露木雅美
2023-1204	R5. 12. 15	貝標本	一括	清水光子
2023-1204	R5. 12. 15	サケツボ	1	清水光子
2023-1205	R5. 12. 26	写真	一括	大竹章夫
2024-0101	R6. 1. 23	中郡学童手帳(国府小成績表)	1	露木雅美
2024-0101	R6. 1. 23	卒業記念写真帖	1	露木雅美
2024-0302	R6. 3. 7	陸軍写真	1	添田良雄
2024-0302	R6. 3. 15	サオバカリ	1	添田良雄
2024-0303	R6. 3. 19	念仏講資料	1	山口進
2024-0308	R6. 3. 26	大磯宿模型	1	大磯町商工会

<移管資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	移管元
2023-0502	R5. 5. 18	写真「東海道の一風景」	1	政策課
2023-1002	R5. 5. 25	絵画、こけし	7	大磯小学校
2023-1103	R5. 11. 21	オープンリールテープ、8ミリフィルム	24	大磯小学校
2023-1104	R5. 11. 21	オープンリールテープ	5	国府小学校
2024-0301	R6. 3. 6	扁額	1	国府中学校

No.	受入年月日	資料名	数量	移管元
2024-0301	R6. 3. 6	壺	1	国府中学校
2024-0309	R6. 3. 14	吉田茂杯	2	大磯中学校
2024-0309	R6. 3. 14	校旗	1	大磯中学校
2024-0309	R6. 3. 14	扁額（吉田茂書）	1	大磯中学校
2024-0309	R6. 3. 14	五彩壺（二代川瀬竹春作）	1	大磯中学校

<購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	購入先
2023-0602	R5. 6. 20	安田鞞彦短冊	1	福地書店
2023-0802	R5. 8. 31	書籍『ノヤキの伝承と変遷』	1	(有) 岩田書院
2023-1203	R5. 12. 2	短冊(加舎白雄筆)	1	福地書店
2024-0304	R5. 3. 29	書籍『サンフランシスコと日本外交』	1	(株) 吉川弘文館
2024-0305	R5. 3. 29	書籍『引揚エリートと戦後沖縄の再編』	1	(株) 不二出版
2024-0306	R6. 3. 31	書籍『朝鮮通信使をもてなした料理』	1	(株) 明石書店
2024-0307	R6. 3. 31	書籍『本陣の研究』	1	(有) 南海堂書店

<除籍資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄贈者等
1989-0202	H1. 2. 7	ナガモチ	1	石井幸太郎
1996-0504	H8. 5. 28	公図	359	税務課

<寄託資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄託者
2	S63. 6. 1	山高帽	一括	西小磯東区長
5	S63. 9. 2	四季耕作図 他	11	個人
16	H1. 12. 9	子ども会旗・七夕資料	一括	西小磯西子ども会
17	H1. 8. 8	菊池重三郎関係資料	1,510	個人
22	H4. 4. 1	稲荷講資料	一括	個人
23	H4. 4. 1	雛人形	一括	個人
28	H5. 7. 22	吉田茂杯 他	5	大磯中学校
30	H6. 4. 12	掛軸 他	一括	西小磯東区長・西小磯西区長
32	H7. 9. 12	獅子頭	2 (1 対)	裡道区長
35	H13. 7. 17	屏風 他	一括	南本町区長
37	H15. 4. 1	木造神像群	12	高来神社
39	H21. 4. 17	扁額 他	1	国府中学校
40	H21. 12. 24	伊藤博文書幅	1	個人
41	H22. 2. 1	大久保家資料	一括	個人
43	H23. 6. 29	掛軸	1	個人
44	H26. 8. 12	脇差	1	個人
45	H27. 3. 6	鈴木芳如関係資料	156	個人
46	H27. 4. 16	画幅「七福神」 他	2	個人
48	H27. 8. 4	わきざし 他	8	個人
49	H27. 8. 4	わきざし	1	個人
50	H28. 6. 29	袖がらみ 他	2	個人
51	H28. 4. 5	杉戸絵 他	10	国土交通省関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所
52	H28. 10. 13	国府祭 鷺舞資料	一式	六所神社
53	H29. 7. 13	城山荘関係資料	57	個人

No.	受入年月日	資料名	数量	寄託者
54	H29. 10. 26	招仙閣関係資料	26	東光院
55	H29. 1. 5	日本国憲法草案	2	個人
56	H30. 9. 9	生沢二宮家資料	一括	個人
57	R2. 1. 7	安田鞞彦宛吉田茂書簡	一括	個人
58	R2. 3. 31	七賢堂関連資料	17	平塚土木事務所
59	R3. 9. 30	中島湘煙書簡	1	個人

※寄託期間は最長2年とし、2年以降は更新を行う。現在の寄託期間は、令和6年3月31日まで。

<資料の館外貸出>

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
松本順人形	1	企画展示	R5. 6. 1 ～R5. 9. 15	渋谷区立松濤美術館
16ミリフィルム 「大磯」「大磯駅前」	2	映像フィルムデジタル化委託	R5. 6. 22 ～R5. 8. 31	(株)東京光音
随神、屏風、掛け軸	4	高来神社夏季例大祭	R5. 7. 13 ～R5. 7. 19	南本町区
冊子「大磯のすまい」	1	伊藤博文邸参考資料	R5. 7. 13 ～R5. 8. 2	個人
獅子頭	2	高来神社夏季例大祭	R5. 7. 15 ～R5. 7. 16	裡道区
学校机、いす ほか	39	大磯小学校 PTA 行事	R5. 10. 4 ～R5. 10. 11	大磯小学校 P T A
堂後下横穴墓群 2号墓 直刀片ほか	3	資料保存委託及び資料確認	R5. 10. 30 ～R6. 3. 8	(株)東都文化財保存研究所
令和4年度企画展 作成パネル	3	大磯まつりでの展示	R5. 11. 8 ～R5. 11. 14	産業観光課
八坂神社祭礼 鎌倉ばやしのVHS	1	お囃子の研究	R5. 11. 12 ～R6. 1. 31	個人
絵はがき	138	大磯写真祭	R5. 11. 14 ～R5. 11. 28	個人
吉田茂関係資料	1	調度品制作	R5. 11. 21 ～R5. 11. 30	杉山アート
谷口吉郎書簡 ほか	4	企画展示	R5. 11. 28 ～R6. 6. 15	谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館
DVD「吉田茂 大磯を 愛した宰相」	1	視聴覚資料	R6. 2. 1 ～R6. 2. 20	個人
伊藤博文掛軸 ほか	5	白岩神社三月例大祭	R6. 3. 2 ～R6. 3. 3	個人

<資料の特別利用>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研究・学術	3	3	2	0	2	1
刊行物掲載	2	1	0	3	1	1
放映・動画配信	1	0	1	0	1	1
ウェブ掲載	1	1	0	0	0	0
展示	0	0	0	1	1	1
展示資料の撮影	1	0	1	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研究・学術	2	1	0	1	1	2	18
刊行物掲載	2	2	2	1	2	2	19
放映・動画配信	0	1	1	1	2	0	9
ウェブ掲載	0	0	1	0	0	0	3
展示	0	2	2	0	0	0	7
展示資料の撮影	0	2	0	0	0	0	5
その他	0	0	0	0	0	0	0

※展示資料の撮影に関連して、常設展示室の撮影については、令和5年4月22日から個人の利用を目的とする場合は申請書の提出を不要とした。

■ 文献資料収集状況

<寄贈機関・関係団体一覧>

- [大磯町] エリザベス・サンダース・ホーム、NPO 法人大磯ガイド協会、大磯小学校 150 周年記念事業実行委員会、大磯町立国府小学校、大磯町、大磯町教育委員会、大磯町教育委員会教育部生涯学習課、大磯町災害救援ボランティアの会、大磯町産業観光部産業観光課、大磯町青少年指導員連絡協議会、大磯町町民福祉部スポーツ健康課、加藤喜規、湘南アートベース
- [茅ヶ崎市] 茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市文化振興財団、茅ヶ崎市博物館
- [秦野市] 野生動物救護の会、秦野市教育委員会、はだの歴史博物館
- [藤沢市] 湘南考古学同好会、日本大学生物資源科学部博物館、藤沢市教育委員会、藤沢市史編さん委員会、藤沢市藤澤浮世絵館、藤沢市文書館
- [平塚市] 岩崎稔、東海大学文学部歴史学科日本史専攻、平岡学園平岡幼稚園、平塚市、平塚市教育委員会、平塚市博物館
- [伊勢原市] 公益財団法人雨岳文庫
- [寒川町] 寒川町史編集委員会、寒川町教育委員会、寒川文書館
- [小田原市] 小田原市郷土文化館、小田原市教育委員会、小田原市立中央図書館地域コーナー、小田原城天守閣、林美禰子
- [箱根町] 箱根町立郷土資料館
- [山北町] 山北町地方史研究会
- [横浜市] アーク・フィールドワークシステム、岩崎博物館、NPO 法人神奈川県歩け歩け協会、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所、神奈川県植物調査会、神奈川県町村会、神奈川県博物館協会、神奈川県文化財課、神奈川県民俗芸能保存協会、神奈川県立金沢文庫、神奈川県立公文書館、神奈川県立歴史博物館、かながわ考古学財団、かながわトラストみどり財団、神奈川文学振興会、ガールスカウト神奈川連盟、三溪園保勝会、シルク博物館、JICA 横浜海外移住資料館、玉川文化財研究所、鶴見大学博物館学芸員課程、鶴見大学文化財学会、馬事文化財団、浜銀総合研究所、睦合文化財株式会社、横浜開港資料館、横浜市教育委員会、横浜市健康福祉局、横浜植物会、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館、横浜みなと博物館、有隣堂
- [川崎市] 川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園、専修大学
- [鎌倉市] 鎌倉国宝館、鎌倉考古学研究所、鎌倉市教育委員会、鎌倉歴史文化交流館、鶴岡八幡宮社務所
- [横須賀市] 観音崎自然博物館、横須賀市教育委員会、横須賀市自然・人文博物館、横須賀建築探偵団
- [葉山町] 葉山しおさい博物館
- [座間市] 座間市教育委員会
- [厚木市] あつぎ郷土博物館、厚木市、厚木市教育委員会、野の花出版社
- [相模原市] 相模原市教育委員会、武相文化財研究所
- [海老名市] 海老名市教育委員会、海老名市立歴史資料収蔵館

[逗子市]	逗子市教育委員会
[愛川町]	愛川町郷土資料館
[真鶴町]	真鶴町立中川一政美術館
[清川村]	丹沢自然保護協会
《県外》	
[茨城県]	稲敷市立歴史民俗資料館、国立科学博物館標本資料センター、土浦市立博物館
[栃木県]	小山市立博物館
[埼玉県]	高麗 1300（日本高麗浪漫学会）事務局、埼玉県立川の博物館、日高市教育委員会、ふじみ野市教育委員会、三芳町教育委員会
[千葉県]	伊能忠敬記念館、国立歴史民俗博物館、市立市川考古博物館、市立市川歴史博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、千葉市立加曽利貝塚博物館、飛ノ台史跡公園博物館、船橋市郷土資料館、松戸市立博物館、まつど文化の MORI プロジェクト、茂原市
[東京都]	吾妻考古学研究所、板橋区教育委員会、板橋区立郷土資料館、EDITORS、江戸遺跡研究会、えにし書房、大田区立郷土博物館、お札と切手の博物館、外務省外交史料館、学習院大学学芸員課程委員会、学校法人明治学院、菊池美術財団、清瀬市郷土博物館、国際文化財、駒澤大学博物館学講座、四門、小学館、昭和館、清泉女子大学人文科学研究所、生活の友社、高輪画廊、玉川大学教育博物館、中央区教育委員会、調布市郷土博物館、千代田区立日比谷図書文化館、東京家政学院生活文化博物館、東京家政大学博物館、東京都江戸東京博物館、豊島区立郷土資料館、豊島区立鈴木信太郎記念館、豊島区立雑司が谷旧宣教師館、東京書籍、東京町田ペンクラブ、中野区、日本博物館協会、パルテノン多摩共同事業体、日野市ふるさと文化財課、PHP 研究所、美術年鑑社、ファミリー・ミュージック・アソシエーション、ビーオーリアルエステート、府中市郷土の森博物館、文化庁、文化庁文化財第二課、物流博物館、文京ふるさと歴史館、文藝春秋企画出版部、堀文子記念館、堀文子ホルトノキの会、町田市教育委員会、町田市立自由民権資料館、港区教育委員会、港区立郷土歴史館、武蔵文化財研究所、明治大学学芸員養成課程、靖国神社社務所、早稲田システム株式会社
[静岡県]	伊豆の国市教育委員会、伊豆の国市教育部文化財課、静岡県立美術館、静岡市歴史博物館、沼津市歴史民俗資料館、浜松市博物館
[愛知県]	安城市歴史博物館、豊橋市美術博物館、豊橋市二川宿本陣資料館
[山梨県]	南アルプス市教育委員会
[群馬県]	渋川市、渋川市教育委員会
[長野県]	諏訪市博物館、茅野市教育委員会、茅野市八ヶ岳総合博物館
[新潟県]	十日町市博物館
[山形県]	米沢市上杉博物館
[石川県]	谷口吉郎・吉生記念金沢建築館
[三重県]	鈴鹿市考古博物館
[岐阜県]	辻田文雄
[和歌山県]	和歌山県立自然博物館、和歌山県立文書館、印南町文化協会
[滋賀県]	草津宿街道交流館
[大阪府]	銀河書籍、国立民族学博物館、鉄道史資料保存会
[兵庫県]	「嶋屋」友の会、人と防災未来センター、姫路科学館
[京都府]	合同会社小さ子社、スタジオ三十三、青幻舎、向日市文化資料館
[広島県]	株式会社熊平製作所
[高知県]	高知県牧野記念財団、高知県立高知城歴史博物館
[岩手県]	奥州市牛の博物館、北上市立博物館
[福島県]	白河市歴史民俗資料館、小峰城歴史館
[青森県]	青森県立郷土館
[北海道]	帯広百年記念館、沙流川歴史館、美幌博物館
[佐賀県]	有田町歴史民俗資料館
[宮崎県]	都城島津邸

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動

■ ミニ企画展

ミニパネル展「吉田茂の妻・雪子 国際人として 歌人として」

期 間／令和5年4月2日（日）～10月31日（火）

開場日数／178日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／12,172人

趣 旨／吉田茂の妻・雪子について取り上げる。吉田雪子の、外交官の妻としての一面と、和歌などを好んだ文化人的な面を中心に紹介する。

内 容／

(1) 雪子の生い立ち

各国の駐在公使や大臣を務めた牧野伸顕の長女として生まれた雪子の生い立ちや、ウィーンで過ごした娘時代のことなどを、家系図や写真を交えて紹介する。

(2) 外交官の妻として

吉田茂との結婚にまつわる話（結婚式に吉田茂が欠席して代わりに兼定が出席したエピソードなど）や、外交官の妻としての振舞いや回想などを、吉田雪子著『Whispering leaves in Grovesner Square 1936-37』や写真などと共に紹介する。

(3) 帰国後の雪子

日本に帰国後、清泉寮の設立に携わったことについて取り上げる。また、闘病生活から亡くなるまでについても紹介する。

(4) 文化人として

歌人としても活動をしていた雪子に焦点をあてる。佐々木信綱との関係や、『雪子歌集』について紹介する。和歌以外にも、英文学作品の翻訳や着物のデザインを考案していたことなどにも触れる。

〔関連行事〕

講演会「吉田雪子 日本での活動」

日 時／令和5年8月6日（日）13時30分～15時00分

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟

講 師／清泉女子大学史料室（準備室）顧問 有光 隆司 氏

参加者数／34人

内 容／吉田雪子の日本での活動について、雪子が協力した清泉寮の設立を中心として御講演いただいた。

（担 当）鷹野



ミニパネル展「大隈・陸奥・吉田 三人の外交と日本の分岐点」

期 間／令和5年11月2日（木）～令和6年3月31日（日）

開場日数／121日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／9,879人

趣 旨／令和5年度、明治記念大磯邸園の旧大隈重信別邸・旧古河別邸及び陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸が公開予定である。これに合わせ、陸奥・大隈・吉田の外交をテーマとした展示を行う。

内 容／

(1) 大隈重信

主に大隈重信の外交について紹介する。佐賀藩での活動、維新後の外交での活躍、明治十四年政変、外相としての活躍、大隈襲撃事件、大隈内閣について取り上げる。

(2) 陸奥宗光

主に陸奥宗光の外交について紹介する。幕末期の活動、維新後の投獄とヨーロッパ遊学、駐米公使としての活躍、外相としての活躍、下関条約調印、闘病について取り上げる。

(3) 吉田茂

主に吉田茂の外交について紹介する。耕余塾・学習院への入学、外交官時代、和平工作、サンフランシスコ講和条約について取り上げる。

(4) 大磯の邸宅

陸奥・大隈・吉田の大磯の邸宅について取り上げる。併せて大磯でのエピソードを紹介する。

(担 当) 鷹野

■ 講演会

七賢堂特別開扉講演会「手紙から見る吉田茂」

日 時／令和5年9月18日(月・祝日)13時30分～15時00分

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟

講 師／國學院大學文学部史学科准教授 柴田 紳一 氏

参加者数／28人

内 容／吉田茂研究において第一級資料である吉田茂書簡を主軸に、吉田茂の人となり等をお話しいただいた。

(担 当) 鷹野



旧吉田茂邸建築講演会・見学会

「大磯邸園の魅力を大解剖！大隈重信別邸・陸奥宗光別邸跡 古河別邸・旧吉田茂邸」

日 時／令和6年2月23日(金・祝日)13時30分～16時00分頃

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟・旧吉田茂邸

講 師／建築史家・関東学院大学名誉教授 水沼 淑子 氏、NPO法人大磯ガイド協会

参加者数／43人

内 容／講演会では、「大磯邸園の魅力を大解剖！大隈重信別邸・陸奥宗光別邸跡 古河別邸・旧吉田茂邸」と題し、大隈重信別邸・陸奥宗光別邸跡の復原工事に関わる調査や資料調査の成果を交えた内容や、旧吉田茂邸のある西小磯の別荘(上郎邸やコンドル邸など)についてお話しいただいた。見学会では、大磯ガイド協会によるガイド付きで旧吉田茂邸を見学した。

(担 当) 鷹野

■ 調度品等の整備

<調度品製作委託>

旧吉田茂邸調度品製作委託

業務内容／旧吉田茂邸の浴室小物調度品を製作し、新館2階の浴室に設置する。

契約期間／令和5年6月30日～11月30日

請 負 者／杉山アート

■ 博物館資料の整備

<収蔵資料整備>

刀剣点検

業務内容／吉田家旧蔵資料のうち、刀剣「兼定」について点検を行った。

契約期間／令和5年11月21日

請 負 者／小野敬博

<館外資料調査>

国立国会図書館所蔵吉田茂関係資料の複写撮影

業務内容／国立国会図書館憲政資料室所蔵の安齋正助関係文書のうち、随記5点を複写した。

実 施 日／令和6年1月11日

■ 刊行物

<チラシ・パンフレット>

- ・講演会「吉田雪子 日本での活動」チラシ A4判片面 900部（令和5年6月刊）
- ・旧吉田茂邸案内パンフレット A4判両面 三つ折 10,000部（令和5年7月刊）
- ・七賢堂特別開扉講演会「手紙から見る吉田茂」チラシ A4判片面 900部（令和5年8月刊）
- ・旧吉田茂邸建築講演会・見学会チラシ A4判片面 900部（令和6年1月刊）

■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視 察	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
見 学	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3

<視察対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・神奈川県県土整備局長／4月25日／9人（北水）
- ・神奈川県県土整備局長／9月13日／16人（鷹野）
- ・国土交通省都市局審議官他／12月18日／8人（北水）

<見学対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・瀬上昭友会／4月15日／12人（鷹野）
- ・令和5年度大磯町新採用等教職員夏季研修会／8月4日／17人（北水）

■ 取材対応

<刊行物>

- ・雑誌『ハッピー&ヘルシーミュージック（令和5年9月1日発行）』『吉田邸紹介』（鷹野）
- ・タウンニュース 令和5年7月7日掲載「吉田雪子の活動を知る」（鷹野）
- ・株式会社KADOKAWA 令和5年9月21日対応 小説執筆のための旧吉田邸取材（鷹野）
- ・小学館『サライ（令和5年12月9日発売予定）』『箱根駅伝特集』での吉田邸紹介（鷹野）
- ・毎日新聞 令和5年12月9日対応 旧吉田茂邸及び担当学芸員の紹介（鷹野）

<テレビ>

- ・BSテレ東『となりのスゴイ家（令和5年5月5日放送）』『吉田茂邸の紹介』（鷹野）
- ・韓国放送公社（KBSTV）『DOCU INSIGHT（令和5年6月22日放送）』『停戦70年特別企画 冷戦の誕生（吉田茂および吉田茂邸の紹介）』（鷹野）

■ レファレンス対応

- ・令和5年2月2日～5月23日／吉田茂の書簡の解説について／個人（鷹野）
- ・令和5年5月23日～25日／吉田茂の書簡の解説について／漢検漢字博物館（鷹野）
- ・令和5年6月20日／吉田茂の眼鏡について／個人（鷹野）
- ・令和5年6月22日／吉田邸の庭園設計者中島健について／産経新聞社（鷹野）
- ・令和5年7月13日／旧吉田茂邸「兜門」傍に「スリランカ代表・ジャヤワルダナ氏を讃える顕彰碑の建立を求める」ことの提案について／個人（富田）
- ・令和5年8月15日～31日／吉田茂の書簡の解説について／個人（鷹野）
- ・令和5年10月19日／吉田茂邸の警備体制について／個人（鷹野）
- ・令和5年11月11日～14日／吉田茂が講和条約を締結した際の渡航手段について／個人（鷹野）
- ・令和5年11月15日／吉田茂邸におけるアルフレッド・コルトーのリサイクルについて／個人（鷹野）

- ・令和5年11月22日／焼失前の吉田邸の間取りについて／個人（鷹野）
- ・令和5年12月15日／吉田茂の愛犬の名前について／フジテレビ（鷹野）
- ・令和5年12月26日／吉田茂の書簡、落款印について／個人（鷹野）
- ・令和6年2月6日／吉田茂のイギリス在任期間について／テレビ朝日（鷹野）
- ・令和6年3月14日／旧吉田邸の造作について／個人（鷹野）

学芸員の調査・研究・普及活動

<通年の活動>

- ・神奈川県博物館協会理事／年間（北水）
- ・神奈川県博物館協会「神奈川震災100年プロジェクト」委員／年間（富田）

<庁内事業への協力>

- ・鳴立庵展示ケースの展示／令和5年6月6日、11月2日、令和6年2月2日（富田）
- ・大磯町青少年指導員連絡協議会自主事業「ナイトハイク&ミュージアム」／令和5年7月29日（村田）
- ・港湾管理事務所の展示／令和5年9月29日（村田）

<学校教育との連携>

郷土資料館の見学・学習指導

講義名	人数	月日	場所	担当
大磯小学校1年生遠足	—	5月16日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
大磯小学校3年生遠足	137	5月17日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	村田
私塾まきば	90	5月26日	県立大磯城山公園 (ひかりの広場)	—
二宮めぐみ幼稚園	37	5月26日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
こいそ幼稚園遠足	20	6月27日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
放課後デイサービス torio 小田原	20	8月26日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
国府中学校1年総合学習「大磯調べ」	14	9月15日	郷土資料館・旧吉田 茂邸	鷹野
国府中学校生沢分校3年生	12	9月26日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
梅の木幼稚園	31	10月19日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
湘南桜ヶ丘幼稚園	56	10月24日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
二宮めぐみ幼稚園	26	10月25日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
ガールスカウト神奈川県第95団	80	11月19日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場他)	村田

学校等への講師派遣

講義名	人数	月日	場所	担当
国府小学校3年総合学習 「たくさん知りたい大磯町」	105	4月27日	国府小学校	富田・ 村田

講義名	人数	月日	場所	担当
国府小学校・中学校生沢分校総合学習	14	6月2日	国府中学校生沢分校	村田・高山

<各種団体との連携・協力>

各種団体への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
O I S O 学び塾 「文化財ウォーク～大磯の天然記念物その3」	5月19日	高麗山	村田
特別展「関東大震災－原点は100年前－」 連続講座『大磯と関東大震災』	8月12日	県立歴史博物館	富田
大磯城山公園調査隊 「あつまれ！アメリカリガニー斉捕獲大作戦」	8月17日	県立大磯城山公園 (不動池)	村田
大磯コミュニティ・カレッジ「大磯の歴史について」	8月19日	東光院	富田
広島県立文書館・広島県市町公文書等保存活用連絡 協議会行政文書・古文書保存管理講習会「古文書解 読クラブの活動－歴史資料の活用を模索して－」	10月31日	広島県情報プラザ	富田
ガールスカウト神奈川県第95団 「大磯町の自然を考える研修会」	11月19日	県立大磯城山公園	村田
令和5年度湘南地区行政相談委員協議会自主研修	3月5日	郷土資料館	鷹野
町民大学講座 「大磯駅周辺の歴史をたどる」	3月23日	大磯地区	鷹野

<学会・研究会との連携>

研修会・会議出席等

名称	月日	場所	担当
神奈川県博物館協会事業 「神奈川震災100年プロジェクト」準備会	4月28日	県立歴史博物館	富田
令和5年度神奈川県博物館協会 第1回役員会・総会・第1回研修会	5月10日	県立歴史博物館	北水
神奈川県博物館協会事業 「神奈川震災100年プロジェクト」委員会	6月8日	県立歴史博物館	富田
令和5年度神奈川県博物館協会第3回研修会	10月3日	相模原市立博物館	富田
令和5年度神奈川県博物館協会第2回役員会	10月24日	県立歴史博物館	北水
神奈川県博物館協会事業 「神奈川震災100年プロジェクト」委員会	12月26日	県立歴史博物館	富田
令和5年度神奈川県博物館協会第5回研修会	3月9日	横浜市歴史博物館	富田

<執筆>

富田 三紗子

2023. 7. 「東海道大磯宿助郷人馬の勤め方－相模国淘綾郡生沢村・寺坂村の事例から－」
『年報－令和4年度－』 大磯町郷土資料館
2023. 12. 「翻訳『紛争終結後国家のための法の支配ツール アーカイブズ (その2)』」
『レコード・マネジメント』No. 85 記録管理学会<共著>
2024. 1. 『三岸節子と大磯』 大磯町郷土資料館
2024. 3. 資料館資料22『大磯町助役日誌 (大正八年一月～一二月)』 大磯町郷土資料館
2024. 3. 「古文書解読クラブの活動－歴史資料の活用を模索して－」『広文協通信』第45号
広島県市町公文書等保存活用連絡協議会

鷹野 真子

2024. 3. 書評「佐藤大介・川内淳史編『COVID-19 の下で、記録に向き合う博物館、史料レスキュー活動と状況の記録』『記録と史料』34 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

研究報告

家族ぐるみでの付き合いがあった。

また、アリスにとつて、雪子はいちばん親しい日本人であった。アリスは吉田や次女の和子が雪子を病院へ見舞う際、ガソリン規制で個人の自動車を使用できなかった吉田らに対して米国大使館の車を週に二、三回出すなど、日米関係が悪化する中でも協力を惜しまず、むしろ献身した。雪子の癌が喉頭まで転移してからも、アリスは雪子のためにスープを作った。最期の数週間はアリスの作るスープしか喉を通らなかったそうだ。見舞ったアリス夫人に対し、「自分はもう先が短いからこんなにしてもらうとものたない。ほかの人にしてあげてほしい」と伝えている。癌と診断されたその年の十月七日、雪子は五十二歳で亡くなった。

七 おわりに

雪子の葬儀は、昭和十六年十月に小石川区（現・文京区）のカトリック関口教会にて行われた。雪子が亡くなった二日後に、葬儀を知らせる新聞広告が吉田の名で出されるが、末尾には「尚時節柄御供物等は御辞退申上候」⁽³⁾とあり、この年の十二月に開戦する太平洋戦争が目前まで迫っていることを予感させる。

外交官夫人としてヨーロッパに滞在する中、そして帰国し病床に臥す中で、暗雲の立ち込める世界情勢に対し、雪子の後生は胸を痛めることも多かったに違いない。ジョセフ・グルーは、雪子を「奥様はいかなる地であっても最高にして最良の品性そのものとされる方でした」⁽⁴⁾と評する。こうした評価は、雪子の努力により身に付いた教養と、彼女の人柄によるものであろう。

戦時期、吉田は和平工作に奔走したことで知られているが、その夫人である雪子も、自身の立場から平和を強く願い、行動をしていたといえよう。世相に流されることなく、信念をもって歩んだ人生は、語学・教養や人柄と併せて、外交官夫人としての評価をより強固なものにしていると感ぜざるを得ない。

注

- (1) 麻生和子『父・吉田茂』新潮文庫、二〇一二年、一三五頁
- (2) 『婦人之友』婦人之友社、一九三八年十一月
- (3) 朝日新聞 一九四一年十月九日 東京朝刊
- (4) 五百旗頭真「吉田茂とジョセフ・グルー」財団法人吉田茂記念事業財団編『人間 吉田茂』（中央公論社、一九九一年）収録

参考文献

- ・吉田茂『世界と日本』番町書房、一九六三年
- ・牧野伸顕『回顧録（上）』中公文庫、一九七七年
- ・牧野伸顕『回顧録（下）』中公文庫、一九七八年
- ・財団法人吉田茂記念事業財団『人間 吉田茂』中央公論社、一九九一年
- ・麻生和子『父 吉田茂』光文社、一九九三年
- ・吉田雪子著・長岡祥三編訳『ジョージ六世戴冠式と秩父宮 グローヴナール・スクエアの木の葉の囁き』新人物往来社、一九九六年
- ・吉田暁子『父 吉田健二』河出書房新社、二〇一三年
- ・吉田健二『父のこと』中央公論新社、二〇一七年

五 「滞英雜記」にみる雪子の思い

昭和十三年（一九三八）九月、吉田に帰朝命令が下る。これにともない雪子も日本に戻った。久しぶりに帰国した雪子の目には、当時の日本がどのように映ったのか。

雪子は、『婦人之友』昭和十三年十一月号に「滞英雜記」^②という題で、イギリスでの思い出や、世界情勢に対する心情などを寄稿している。これによると、二年五ヶ月ぶりに帰った日本は、「絶えず進歩して来た日本が、東京が、その動きを暫く停止させてゐる」ような印象を受けたそうだ。「タクシーなどが少くなつたせいとか、街の様子なども何となく淋しく、行き交ふ人々の表情にも緊張と憂ひの色が濃くあらはれてゐるやうに見受けられ、今更に国を挙げて重大時局に直面してゐることを、感ぜずにはゐられなかつた」。しかし、しばらくするとその空気にも慣れはじめ、「周囲の人々をみても、たゞ緊張してゐるといふより、まだまだ余裕をもつて生活してゐる、むしろ、自分々々の生活に安んじてゐる人の多いことにも気づいてきた」という。

ただし、雪子はこうした日本の空気を決して良いこととしては捉えなかつた。「もし国民が皇軍の輝かしい勝利の方面しか知らないうちに安心したり楽な気持ちになつてゐるのであつたら、それは却つて危険なことではないかと思つた」というように、むしろ危機感を抱かずにいられなかつたようだ。先にも述べたように、雪子が外交官夫人としてイギリスに滞在していたのは、日中戦争がはじまり、日英関係が日を追つて悪化していつたときである。そのような中で、海の外から日本を見てきたこと、滞英中も「朝

に夕に伝へられる内外の新聞やニュースなどを通して故国を思ひ、夜も眠られないことが度々」であつた雪子だからこそ感じるものであつた。

雪子のそうした思いは、同時に使命感になつたようだ。「日本の正義、日本の主張を知つてもらふためにどうしたらよいか、日本人である私ども一人々々が、身をもつて、その正しさをあらはさなければならぬ」こと、そして、海外における日本の本當の情勢を国民が知ることは「決して危険なことではなく、却つて愛国心を増すこと」、そして「そこから生れた本當の安心、本當の余裕をもつて生活することが、何よりも力強いこと」であると信じた。

雪子はこの「滞英雜記」で、イギリスの人々と接した中で印象的であつた体験を紹介している。いづれの体験も、英国の人々が雪子たちのことを決して敵対している日本人としてではなく、一人の人間として接してくれたことを回想するものである。雪子は、そうした体験から、英国の人々が、教養が高く、見識があり、何より真実を尊ぶことを高く評価していた。そして、同時に雪子自身もそうした生き方・考え方を重んじていたであらうことが、清泉寮に求めた姿や、日本国民が世界における日本の本當の情勢を知るべきであるという考えを持つていたことから窺えよう。

六 晩年

昭和十六年（一九四一）五月、雪子は東京大塚の癌研究所附属病院で乳癌と診断される。病床の雪子を見舞つた人々の中に、アメリカ駐日大使であるジョセフ・グルーとその夫人アリス、娘のエルシーがいた。グルーは、日米開戦を阻止しようと奔走した一人である。ゆえに、吉田とグルーは、

に、日本の全権大使である牧野の秘書官として随行した。その後の吉田は、昭和三年（一九二八）から二年間、田中義一内閣および浜口雄幸内閣で外務次官を、昭和五年（一九三〇）に駐伊大使、昭和十一年（一九三六）に駐英大使と、外交官としての出世街道を歩んだ。

余談ではあるが、吉田夫妻の披露宴は、華族会館（現在の霞会館）で行なわれた。しかし、そこに新郎である吉田の姿はなかった。というのも、このとき吉田は痔の悪化で入院していたため、出席が叶わなかったのだ。その吉田の代わりに鎮座していたのは、なんと吉田の実父・竹内綱が吉田に贈った「兼定」という刀であった。雪子夫人にとって、忘れることのできない披露宴だったに違いない。

四 外交官夫人として

吉田と結婚した雪子は、外交官の妻として吉田に随行した。はじめは、結婚当時ロンドン勤務を任ぜられていた吉田と共に渡英。この渡英前、父・伸頭は「ロンドンには、絹に包まれて靴にしまわれた真珠のようだ。その輝きはすぐにはわからないけれど、長くいればいるほどわかってくる」⁽¹⁾と雪子に言い聞かせたという。父からの助言により、雪子は渡英前からイギリスに対して好感を持ち、その後も彼女の親英的な面を形成させていった。次いで同年十二月には大使館三等書記官に任ぜられた吉田とともにイタリアへ、大正元年（一九一三）からは、吉田が安東領事に命ぜられたことで、中国へ随行した。この後、中国での任は昭和三年（一九二八）まで続き、先に述べたように吉田が猟官運動を行なうに至ったのである。

欧州での生活経験があり、外国語ができた雪子には多くの友人がいた。

雪子はパーティーに招待をされたり、あるいは雪子から招待をしたりと、吉田の赴任先では外交官夫人としての交友を深めた。また、非常に努力家な一面もあったようである。外国語の発音をより完璧なものにするために語学の先生に付いて勉強をしていたという。

ところで、雪子は熱心なカトリック信者であった。そのため、吉田が駐伊大使をしていた頃には、カトリックの修道女とも交友があった。昭和八年（一九三三）、吉田が待命で帰国をした際に、日本に宗教教育や情操教育を行なう学校を建てようとした修道女たちが雪子を頼って来日する。彼女らは雪子の協力を得て、昭和十年（一九三五）に清泉寮（現・清泉女子大学の前身）を設立した。この清泉寮について、雪子は、外国語を十分に教え込むだけではなく、日本固有の文化についても教養を高め、国際的に恥ずかしくない女性を送り出すための場所としての機能を想定していたようである。

さて、昭和十二年（一九三七）、北京郊外での盧溝橋事件を端とする日中戦争がはじまった。吉田が駐英大使となつて二年目の出来事である。日中関係の悪化は、同時に日英間の関係にも影響を及ぼしたことは言うまでもない。そのような中、吉田に随行して渡英した雪子は、イギリスでの出来事を英文の随筆集としてまとめた。この随筆集は『Whispering Leaves in Grosvenor Square 1936-37』と題され、昭和十三年（一九三八）にイギリスで出版された。この随筆集をイギリスで出版した雪子には、当時、目を追って悪化していく日英関係をどうにか良い方向にもっていくことはできないかという思いがあった。自身の行動がイギリスと日本の架け橋になることを願っていたようだ。

吉田茂の妻・雪子 平和への思い

鷹野 真子（当館学芸員）

一 はじめに

内閣総理大臣を五度務め、戦後の日本の復興を担った吉田茂は、戦前にはおよそ二十年の間、外交官として中国やヨーロッパへと赴き、太平洋戦争勃発前の不安定な世界情勢の中でその任に就いた。その外交官としての吉田を支えたのが、吉田の妻・雪子であった。語学堪能、社会的で外国人の友人も多い雪子は、まさに理想的な外交官夫人であった。他方で、文化・芸術面においても活動をしており、歌人としては佐佐木信綱に師事し、日本人としての教養も十分に身に付けていた人物である。

また、戦中においても新英米派の中心的人物であった牧野伸顕（一八六一・一九四九）を父にもつ雪子は、その父の影響もあり、殊に親英的な一面があった。ゆえに、外交官夫人という立場から国際情勢を見、日英関係の悪化や、日本の行く末を憂い、案じ続けた。

本稿では、令和五年度旧吉田茂邸ミニパネル展示「吉田茂の妻・雪子 国際人として、歌人として」の内容を踏まえ、吉田雪子について紹介するとともに、展示では紹介しきれなかった平和への思いを紐解いていく。激動ともいべき世界情勢の中で、外交官である夫を支えた雪子。その人物像について、改めて考えてみたい。

二 雪子の生い立ち

雪子は、明治二十二年（一八八九）、父・牧野伸顕と母・峰子の長女とし

て生まれた。父・牧野伸顕は、維新の三傑の一人である大久保利通の次男で、外交官および、文部大臣、農商務大臣、外務大臣などを務めた政治家であり、更には昭和天皇の側近を務めた人物である。明治四年（一九七二）、伸顕は十歳にして岩倉遣欧使節団に随行し、アメリカに三年間留学していた。雪子が生まれた年には、イタリアで公使館書記官として勤務していた。母・峰子は明治期に山形県令、福島県令、栃木県令などを務め、積極的に地域開発を進めるその手法から「土木県令」とも呼ばれた三島通庸の次女である。詞や和歌の才能に優れた人物であった。

父・伸顕は明治三十年（一八九七）にイタリア公使、翌年にオーストリア公使に任じられた。雪子もこれに同行してローマ、ウィーンで暮らしたため、吉田と結婚する以前から欧州での生活経験を身に付けており、語学も堪能であった。雪子の外交官夫人としての素養は、外交官を父に持つ家系に依るところが大きいといえよう。

三 吉田との結婚

明治四十二年（一九〇九）、雪子は当時駆け出しの外交官であった吉田茂と結婚した。雪子は十九歳、茂は三十一歳であった。

牧野家の長女である雪子との結婚で、吉田は政界や外交に発言権のある牧野伸顕を後ろ盾に得ることができた。吉田は外交官として、最初は奉天、次いでイギリス、ロンドンに赴任するが、その後はしばらく中国での外交官生活が続いた。当時の外交官は、欧米諸国での勤務が出世街道であった。この道を外れていた吉田は、その状況を打開するため、牧野に対して獵官運動を行なった。牧野に頼み込み、大正八年（一九一九）のパリ講和会議

同様、西相模地方の俳壇の重鎮となっていることが記されている⁽³⁾。

忠洪は天保十一年に亡くなり、その跡は子の忠衛が継いでいる。忠衛の詳細な経歴は不明だが、幕末期の動乱や戊辰戦争を生き抜き明治十六年に亡くなっている。

六 おわりに

以上の様に「大久保家資料」に含まれる七点の先祖書より「隅の大久保家」の代々当主とそれぞれの経歴を見てきた。早い時期から藩主大久保家に仕え、「隅の大久保家」の基礎を築いた大久保忠門、「諸道具物支配」や元禄地震の「御普請惣奉行」など藩内の重役や、朝鮮通信使の対応を二度こなすなど小田原藩で目覚ましい活躍をした大久保忠言、「不調法」によって家老職を失いながらも武芸の道で家を守った大久保忠宣など、これまであまり見えてこなかった小田原藩の重鎮「隅の大久保家」の実像を明らかにすることができた。本稿が、小田原藩の研究の一助となれば幸いである。

謝辞

本稿において調査対象とした大久保家資料は、大久保忠旦氏の御厚意によって、当館にご寄託いただいた史料である。記して感謝申し上げます。

注

- (1) 神奈川県民部県史編集室『神奈川県史 別編1 人物』(神奈川県 一九八三年) 一五〇～一五七頁。
- (2) 「大久保家資料」二一五七―二二四。

(3) 没年については、大久保家の菩提寺である大久寺所蔵の「引導帳」を参照した。

(4) 小田原市編『小田原市史 史料編 近世1藩政』(小田原市、一九九五年) 一八八頁。

(5) 前掲註(1)、一五六～一五七頁。

(6) 前掲註(4)、二二七頁。

(7) 前掲註(1)、一五三頁。

大久保忠玄の跡を継ぎ、忠玄と同様に「御番頭」に任じられ、「座席之儀は御家老」となった。元服は享保十九年のこと。

忠景は当初、「御側勤」をしていたが、延享二年（一七四五年）には「御取次」を、宝暦二年（一七五二年）には「年寄上座」として「年寄往還出役」を、宝暦三年には「年寄月番」を勤め、宝暦八年に「御家老職」を命じられる。また、宝暦十三年には將軍徳川家治に「御目見」している。

しかし、明和元年（一七六四年）正月に「御賄方頭取」に任じられるも四月には罷免され、さらに六月には家老職も免じられて「御譜代御番頭」となる。忠景は明和五年に隠居して家督を忠宣に譲り、宇津平角に名を改める。そして、明和六年に剃髪して宇津一徳に名を改め、安永六年に小田原にて病死する。

忠景の子の大久保忠宣は先祖書（四）によると、宝暦五年に藩主大久保忠興に「御目見」し、明和五年に家督を継いで「御譜代御番頭」となる。同じ年には「年寄役上座」に任じられている。

以下、先祖書（七）の記述より忠宣とその子の忠洪を見ていく。忠宣は、天明二年（一七八二年）に又右衛門に名を改めて、翌年九月二十一日に「御家老職」に任じられている。しかし、天明五年に「不調法」があったため、「御家老職」を「御免」となり「御譜代御番頭末席」を命じられ、さらに一ヶ月の「遠慮」を命じられた。忠宣が何かしらの問題を起し、懲罰を受けたものと考えられる。

その後、忠宣は天明八年より久能山東照宮の「正外遷宮」の実行を勤め、寛政二年（一七九〇年）からは槍術師範を勤めている。寛政三年には、藩主の前でその武芸を披露し、褒賞を貰っている。その功績もあつてか、「末

席」を免除されている。また、寛政七年にも武芸を披露して藩主より褒賞を貰っている。

小田原藩は、寛政十年、槍術の師範としてか吉野孫介という人物を取り立てて免許を与えている。そして、忠宣は褒賞を貰い、寛政十一年に隠居している。おそらく、忠宣より槍術師範の後継を推薦したことによるものと考えられる。

『神奈川県史』によれば、忠宣は武道や俳諧などに優れ、特に武道に關しては宝蔵院流を学び、日本三名槍の一人と言われた。また、大磯町の鴨立庵主白雄の門人でもあり、西相模地方の俳壇隆盛期の指導者ともいわれている⁽⁵⁾。

隠居した忠宣は宇都宮有隣軒と名を改め、その後も槍術の師範として多くの門弟を輩出したことで、藩から褒賞として「加賀絹三尺」を与えられている。忠宣は文政四年に亡くなっている。

忠宣の子、忠洪は安永三年に誕生した。寛政七年に父の忠宣に連れられて藩主大久保忠顕に「御目見」している。同年中には、「武芸出精」したことを評価されて「御吸物御酒」を与えられている。寛政十年、忠宣の隠居に伴い家督と知行高千石を引き継ぎ、「御譜代御番頭」を命じられている。「大久保家資料」の先祖書には、大久保忠洪が家督を継いで以降の記述が残されていない。ただ、『小田原市史』掲載の文政八年の「小田原御家中知行高寛」には、「御家老 高千石 大久保又右衛門」の記述がある⁽⁶⁾。

「隅の大久保家」は再び家老の座に復帰したことが分かる。また、『神奈川県史』には、忠洪が文政五年に藩校集成館の建設を担当し、設立後に総裁に就任していることや、鴨立庵主倉田葛三の門下で父忠宣と

天和四年に「御馬方支配御役」を歴任、元禄元年に右衛門兵衛へ改名し、元禄三年には「月番御役」を命じられる。

元禄八年四月三日、忠言は藩主忠職より將軍徳川綱吉の「二度目」の「御成」への「御目見」を命じられている。忠言は「御太刀目録」をもって「御目見」し、松平弾正忠など若年寄より「御内服三ツ」をいただいている。元禄八年十二月には忠門が隠居し、家督を相続している。

元禄十二年、忠言は「江戸小田原諸道具改」を命じられ、真田六右衛門と共に「御用頭取」として、三年かけて「小田原御道具改」の仕事を完了した。しかし、元禄十六年十一月二十二日、大地震が発生し、「諸御道具」の一部が焼失してしまう。そこで、元禄十七年に「御道具改」を再度命じられ、五か月で仕事を完了している。さらに、宝永三年には渡辺与一兵衛と山本久門を「諸道具支配」とし、忠言を「惣支配」とする形で体制が整えられた。

元禄十六年には、渡辺十郎左衛門と真田六右衛門と共に「御城御普請惣奉行」に任じられている。小田原城の普請は宝永三年六月十八日に「御天守御成就」とあり、その時点で完了したものと考えられる。

先祖書(二)には、宝永三年十一月十一日に、江戸の高槻勘助らより飛脚にて藩主からの奉書が到来したことが書かれている。この奉書には「御家中之者之内不行跡之者」や「転変等仕者」がいと聞かため「御仕置急度相立候」ことが書かれており、忠言は「御家中之者共」に読み聞かせて、「印別居別相認」た請書を届けている。

このように元禄地震への対応や藩内の統制に貢献した忠言は、宝永七年正月十一日に江戸に呼び出されて、「御家老役」に任じられた。そして、翌

年に予定される「朝鮮人来聘」への対応を命じられた。先祖書(三)によれば、忠言は正徳元年(一七一一年)の「朝鮮人往来御馳走御用」を滞り無く勤め上げ、その翌年に江戸にて「御手目御勝物」をいただき、その上「御召物品々」を拝領している。また、享保四年の「朝鮮人来朝」の際にも「小田原御馳走惣奉行」に任じられ、滞り無く勤め上げて再び褒賞をいただいている。

忠言のその後について、先祖書(三)によれば、正徳五年に「御賄方元相立候」のため「武具諸御道具支配御免」となり、享保六年には隠居して子の太五郎忠玄に家督を譲った。忠言は宇津一養と名前を改めるが、享保十四年に「御家老元之席」に戻り、名前を大久保又右衛門に改めている。忠玄は、先祖書(四)によれば、享保十六年に病死している。忠言が家老に復帰した理由は不明だが、忠玄の健康状態が関係していた可能性を考えるとができる。

なお、『小田原市史』に掲載されている享保九年の「順席帳」によれば、「御側年寄 番頭」に「千石 大久保右衛門兵衛 忠躬 三十七」とある。この忠躬が忠玄と考えられる⁽⁴⁾。

先祖書(三)によれば、忠言は享保十七年より藩主大久保忠興に四度隠居願いを出しており、元文三年(一七三八年)によく隠居が認められた。忠言は剃髪して名前を大久保一養と改めた。寛保三年正月六日、忠言は小田原にて亡くなった。

五 忠景より忠洪まで

忠言の孫が大久保忠景である。先祖書(四)によれば、享保十六年に父

門の経歴を整理する。

まず、忠言の先祖書(三)より見ていく。忠門は八歳の時に藩主大久保忠職に「御契約申上」、寛永十六年(一六三九年)の明石転封の際に召し出され「新知四百石」を与えられた。また、「江戸定御供」に任命され、江戸にて「御取次御客御挨拶」を勤めた。その後、年号は不明ながら百石を増され、慶安二年の唐津転封に伴い百五十石を増、席次も「寄合組」となる。寛文五年(一六六五年)、「年寄役」となり、寛文七年さらに三百五十石を増、合計で千石となる。先祖書(三)では、「年寄役」を「今之御家老席」と記している。家老としての「隅の大久保家」はここから始まったということが出来る。また、加増と同時に「侍組御預」となり、名前を又右衛門に改める。元禄八年に隠居し、名前を宇津一身と改める。元禄十二年に死去する。

忠門の動向については、忠宣の先祖書(六)が多少詳しく触れている。寛文十年に藩主大久保忠職が唐津で亡くなった際には、「惣名代」として後継となる大久保忠朝へ「伺御機嫌」のため江戸まで行っている。京都本禅寺における忠職の葬儀の際には「御用懸」を勤めた。延宝六年(一六七八年)の肥前唐津から下総佐倉へ転封の際には「唐津御城渡御用懸」を命じられ、加藤孫大夫と後藤忠左衛門と共にその職責を果たしている。

天和元年(一六八一年)に藩主忠朝が肺を病み「乗物御免」を幕府へ願いだした際にもその取次を担当したようである。その後、忠門は貞享年間に病を得て「御家老職御免」を申し出ているが、これは「御意ヲ以御留」と認められなかった。藩主からの信任が篤く、前述のとおり忠門は元禄八年まで家老職を勤めている。

四 大久保忠言について

大久保忠門の嫡子忠言については、七点ある先祖書のうち、六点到記述があり、そのうち三点は忠言自身が書いたものである。

各先祖書の記述の年代幅は、忠言が五歳の時の寛文八年から、(一)が宝永三年(一七〇六年)まで、(二)が享保四年まで、(三)が享保十七年まで、(三)に関しては忠言の没年が追記されている。

まず、(一)から(三)までの各先祖書に共通している記述を基に忠言の経歴を見ていく。なお、忠言は最初、忠辰を名乗り、その後、忠言、忠種と名前を改めている。ただし、改名時期は不明のため本稿では忠言で表記を統一する。

大久保忠言は寛文四年九月十八日に肥前唐津に生れた。寛文八年に藩主大久保忠職に、延宝元年には藩主大久保忠朝に「御目見」している。延宝四年、渡辺三左衛門の養子となり渡辺弥六郎と改名し、大久保家が佐倉へ転封した後の延宝六年に半元服する。延宝七年より「江戸御小性」に任じられるが、延宝八年に実兄の新五郎が病にて「御奉公不罷」となったため、実父大久保忠門の嫡子となり、大久保斎に改名して御番頭へと転身することになる。

先祖書(三)には、この時の経緯が記されている。当初、実兄新五郎の代わりとして、代官の江川太郎左衛門の二男定右衛門を大久保家の養子に迎える予定だったが、渡辺家に送られていた忠言が大久保家に戻って嫡子となり、渡辺家には定右衛門が婿養子として入ることで落着した。

大久保家に戻った忠言は延宝八年に元服し、翌天和元年に「江戸御取次」、

司」となっていることが家系図に記されている。

その後、家系図では、忠高の四男忠種（元禄十二年（一六九九年）没）
— 忠言（忠辰・忠種とも。寛保三年（一七四三年）没）— 忠玄（忠躬とも。
享保十六年（一七三二年）没）— 忠景（安永六年（一七七七年）没）— 忠
宣（文政四年（一八二二年）没）— 忠洪（天保十一年（一八四〇年）没）
— 忠衛（明治十六年（一八八三年）没）と続いていく。この家系図にはそ
の先の記述が無いが、忠衛の後には一養（大正三年（一九一四年）没）—
鑑二（大正六年（一九一七年）没）— 忠鑑（昭和四十八年（一九七三年）
没）と続いていく^③。なお、大久保忠鑑は明治期の内閣総理大臣伊藤博文
の秘書を務めた人物である。

続いて、「大久保家資料」に含まれる七点の先祖書について整理していく。
「隅の大久保家」の歴代当主の順番に、先祖書の作成順を並べると【表】
の通りとなる。各先祖書にある記述の年代幅は異なるが、これらの先祖書
を総合すれば、「隅の大久保家」の経歴を解き明かすことができると考えら
れる。

なお、【表】に付言すれば、資料番号二―一は、一つの資料の中に忠景と
忠宣の二つの先祖書が混在している。また、忠言、忠景、忠洪の代に関し
ては、本人を中心とする「親類縁者之覚」があるため、小田原藩内での藩
士同士の続柄も確認することができる。

	資料番号	作成者	内容	備考
(一)	2-57-33	大久保忠言	忠言	
(二)	2-57-48	大久保忠言	忠言	
(三)	2-57-140	大久保忠言	忠俊～忠言	「親類縁者之覚」あり
(四)	2-1	大久保忠景	忠門～忠景	「親類縁者之覚」あり
		大久保忠宣	忠宣	
(五)	2-57-83	大久保忠宣	忠門～忠言	
(六)	2-57-138	大久保忠宣	忠門～忠玄	
(七)	2-57-137	大久保忠洪	忠景～忠洪	「親類縁者之覚」あり

【表】「大久保家資料」に含まれる先祖書の一覧
以下、本稿では各先祖書を（一）～（七）で表記する。

三 大久保忠門について

「隅の大久保家」の祖とも言うべき大久保忠門については、子の忠言、
曾孫の忠景、玄孫の忠宣が先祖書にて言及している。三人の先祖書より忠

小田原藩家老「隅の大久保家」の歴代当主と事績

伊藤匠（元当館学芸員（公計年度任用職員））

一 はじめに

大磯町郷土資料館（以下、当館）では、小田原藩の家老職を務めた「隅の大久保家」が収集作成した資料群「大久保家資料」を、所有者である大久保忠旦氏より寄託を受け、江戸期より昭和期にかけての資料約六〇〇点を整理保存している。その「大久保家資料」の中で、「隅の大久保家」の歴代当主とその事績を記した資料として、家系図が一点、先祖書が七点ほど確認されている。

「隅の大久保家」は、江戸時代初期の当主大久保忠門が藩主一族の大久保忠職に仕えたことから始まる。その忠門が、一代で家禄千石、家老の職を獲得した。その後も、忠門の子孫が家督を継承し、藩の重鎮として代々の藩主一族に仕えた。なお、「隅の大久保家」の呼称は、大久保忠旦氏が伝え聞いたところによれば、小田原城三の丸を「隅」と呼び、そこに屋敷があったことに由来するという。

このように、「隅の大久保家」は藩主一族である大久保家の重鎮であったが、歴代の当主の具体的な役職や経歴まではあまり明らかにされていない。少なくとも大久保忠門と、文化人としても知られる大久保忠宣・大久保忠洪が『神奈川県史』で紹介されている¹⁾。しかしながら、「隅の大久保家」の歴代の当主や小田原藩における事績などの情報は分らないままである。

そこで、本稿では、「大久保家資料」より家系図や先祖書をひも解いて、「隅の大久保家」の実像を明らかにすることを目的とする。

二 家系図と先祖書

まず、「隅の大久保家」の家系図から歴代当主の変遷をたどっていく²⁾。そもそも大久保家とは、室町時代に三河国に土着したとされる宇津宮泰藤を祖とする一族とされ、その嫡流の忠俊の代より大久保を名乗り始めたと言われる。大久保忠俊は、松平清康・広忠・徳川家康と三代に仕え天正九年（一五八一年）に亡くなった。

後に小田原藩主となる大久保家は、忠俊の弟忠員の一族の出であり、忠員の孫で小田原藩主となる忠隣は、慶長十九年（一六一四年）に讒訴によって処罰され左遷される。その後、忠常―忠職―忠朝と代を重ね、所領も武蔵国騎西、美濃国加納、播磨国明石、肥前国唐津、下総国佐倉と転々とする。再び小田原藩主となるのは、貞享三年（一六八六年）のことで、大久保忠朝の代であった。

忠俊の嫡男忠勝は、永祿七年（一五六四年）の三河一向一揆との戦いで眼を負傷してしまい、その後は武功を挙げることができないまま慶長六年に没している。忠勝の嫡男康忠は、徳川家康より「康」を拝領、以後家康の旗本として数々の合戦に参加し、元和七年（一六二二年）に没している。

康忠の後は、康村―康任と続いていく。「隅の大久保家」へとつながるのは、康忠の弟忠高（忠以とも）である。大久保忠高は徳川家康の四男松平忠吉に仕えるが、忠吉が慶長十二年に亡くなると浪人し、和歌山藩主で徳川家康の十男徳川頼宣に仕え、慶安三年（一六五〇年）に亡くなる。忠高の嫡男も同様に紀伊徳川家に仕えるが、その後浪人の身となり、最終的に長門国で没している。一方、忠高の四男忠種（忠門とも）が大久保家の「家

年 報

令和 5 年度

- ◇ 大磯町郷土資料館年報 第 36 号
- ◇ 令和 6 年 9 月 4 日発行
- ◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660